

○議長（小林哲雄）

日程第3 諸般の報告を行います。新年に当たり、町長には登壇の上、年頭のご挨拶をお願いいたします。

町長。

○町長（府川裕一）

改めて皆さん、明けましておめでとうございます。今年のお正月、素晴らしいお天気の中で今年を迎えられたと。そのときに途中、夕方大雪があつて、ちょっと心配もありましたけれども、元旦の朝を今年1年開成町は、事故、大きな災難に遭うこともなく、無事に1年過ごせるのかなというふうなスタートを感じました。

テレビを皆さん見ましたか。箱根駅伝。青山学院が初優勝。ずっと私も2日間、箱根駅伝を見ていたんですけれども、素晴らしい記録の中で断トツの優勝。なぜ突然、青山学院がそれだけの記録を出したのかなと。特に5区、柏原選手の山の神だと言われていた記録を簡単に、簡単にとはい言いませんけれども、塗り替えてしまったと。

選手の表情を見ていたんですけれども、みんな走り終わった後、倒れることもなく笑顔で、余裕を持っていたと。ほとんどの区間、区間賞を取った選手の人たちも、記録を見ると、どう考えても力を出し切って倒れるというのが普通なんですけれども、そうじゃなくて、みんな余裕を持っていたすきをつないでいた。どうしてなんだろう。私も考えてみました。やはりこれは自分のために走っていたら、なかなかああいう姿は記録が出せないのかなと。選手に出られなかった人たちの思いや、また両親や、家族をなくした人も選手の中にいたという話、人のためや、また母校のために、そういう思いで、人のために走ることができたときに、ああいう結果が出せるのかなと。

開成町も今、神奈川県でも元気な町と言われていますが、もっともっと元気な町にするには、やはり開成町に住んでいる人が元気になってもらう。そのためには、役場の職員が、今日は議会で管理職がいますけれども、管理職が率先して明るく元気で、笑顔で仕事ができるように町長として持っていかなければいけないのかなと。

青山学院の監督、いろいろな新しいことをどんどん取り入れてやっていた、おもしろい監督だと選手は言っていましたけれども、開成町も毎年毎年改善をして、町民の皆さんへサービスを最大限提供できるようにしていく。そういう改善は常にしていかなければいけないのかなと。今回の駅伝を見て、私はそう感じました。開成町をもっともっと元気にしていく。そういう1年にしていきたいなと、駅伝を見て、感じた次第です。

ところで、2月1日、開成町にとって大変重要な日です。酒田村と吉田島村が一つになって60年という記念日であります。開成町は、この日を新たなスタートの日と位置付け、昨年、ブランディングチームを立ち上げて、開成町の価値やよさを外に発信できるようにいろいろな戦略を開成スタイルという形でブランディング戦

略プランをつくらせていただきました。途中経過でありますけれども、議会の皆様にも説明をさせていただいております。

2月1日には、新しい開成町のロゴマークを発表したり、新しいキャラクターあじさいちゃんの着ぐるみも間に合うように今、発注をしております。2月1日を持って、この1年間、開成町は新たなスタートをしていきたい。そのためにブランディング戦略を立てさせていただいております。

何でそのようにしていくか。開成駅周辺の区画整理、暮れには公園5カ所の区画整理組合で整備をして、開成町に移管をしていただきました。今年夏までには全て事業が完了する見込みが立ち、ここに新たに外から、特に若い世代の人たちに移り住んでもらえるような、そういう町にする。開成町を選んでもらえるような町にしていく。そのためのブランディングであります。そのためには子育て支援を、特に今年充実をさせていきたいと。その中で三つ、子育て支援について、話をさせていただきたい。

一つは、役場の中の機構改革の中で、教育委員会の中に、子育て支援室をこの4月から発足をさせていきたい。役場や町民センターを行ったり来たりしなくて済む、ワンストップサービスができるような形を、役場の教育改革の中で、これはスタートをさせていきたい。

二つ目は、開成駅東口に子育て支援センター、広場型の常設型の支援センターを設置していく。

26年度、役場の前に、ファミリーサポートセンターというものを新たにつくりましたがけれども、これらを合体して、ファミリーサポートセンターと支援センターを駅近くに常設型として整備することで母親支援をさらに充実をさせていきたい。

三つ目、今まで小児医療費は、小学校に上がるまででしたけれども、27年度から6年生まで拡大することによって、経済的負担を減らすことによる子育て支援。

この三つを特に、今年から充実させることによって、できるだけ早く南部の区画整理地域に若い世代の人たちに移り住んでもらえるように、促しを今年度特に力を入れていきたいと思っています。これはまた、3月議会のときに予算審議の中で皆さん方と議論をさせていただきたい、上程をさせていただきたいと思っております。

それから今年度、まだ北部の整備計画は計画中でありますけれども、これを今年度中に作成し、27年度から瀬戸屋敷周辺の整備事業にできるところから取り組んでいきたい。それは2020年、東京オリンピックが確定をし、箱根の仙石から南の矢倉沢につながる道路が開通をします。それによって、南、開成、東名高速とルートが確定をしますので、そのお客さんを、やはり開成町でとめて、特に瀬戸屋敷周辺でお客さんに来てもらって、北部周辺の弥一芋ほか農産物を売れる場所の確保、交流人口の確保をしていきたい。そのための27年度から着手をしていきたいと考えております。

開成町、神奈川県でも元気な町と言われておりますけれども、これをもっともっと元気な町にしていくために、今年1年皆さん方といろいろな議論をしながら、開成

町の発展のために尽力をしていきたいと考えておりますので、ぜひ皆さん方のいろいろなご意見をいただきたいと思います。

今年1年、開成町の町民の皆さんと、議会の皆さんがご健勝で1年過ごせますよう、どうか全町民の皆様のために、議会の皆さんと議論をしながら、いい町にしていきたいと思っていますので、今年1年どうかよろしくお願いいたします。

以上で年頭の挨拶ということにさせていただきます。本当によろしく申し上げます。

○議長（小林哲雄）

ありがとうございました。

次に、私より平成27年第1回開成町議会定例会1月会議に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

ひつじ年の幕開けです。群れを成して行動することにちなみ、家族の安泰や、平和をもたらすとされたとおり、穏やかな1年になることを願っております。

昨年を振り返って見ますと、開成町の明るい将来を予感できる出来事が多くあった年でありました。3月16日に足柄紫水大橋、6月4日には開成中央通りが開通いたしました。8月1日には、南部地区土地地区画整理事業において、仮換地の使用収益の開始ということがありました。これにより建物の建築が始まりました。また、12月1日には、6カ所の公園及び緑道、歩行者専用道路の一般使用開始がなされました。改めて区画整理組合の皆様に感謝申し上げます。

あわせて市街化調整区域から保留フレームに、そして平成19年の組合設立、平成27年度には事業完了予定と、これまでのご苦勞とご努力に対し、改めて町役場職員の方々に厚く御礼申し上げます。

さて、今年は町制60周年、戦後70年、そして阪神・淡路大震災20年と、さまざまな出来事の節目に当たる年になります。

町制60周年を考えてみますと、昭和の大合併により、昭和30年2月1日に酒田村と吉田島村が合併し、開成町が誕生いたしました。合併した年の10月の世帯数は801世帯、人口は4,633人でした。昨年、平成26年の10月の世帯数は6,149世帯、人口が1万6,843人と、世帯数で約5.8倍、人口では約3.6倍と大きく飛躍し、今後も人口増が見込まれ、開成町の伸びゆく未来図を描くことができ、大変うれしく思っております。歴代の町執行者並びに町職員の方々に厚く感謝申し上げます。

開成町議会でも、町制60周年にあわせ、本年4月より通年議会制度をリニューアルいたします。平成22年1月より通年議会制度をスタートいたしました。全国で4番目、関東地方では、初の制度導入でした。各地の議会の努力により、平成24年には地方自治法が改正され、自治法でも通年の会期が制度化され、今では従来の通年議会が34議会、自治法に基づく通年の会期制度を導入した議会が16議会となっています。県内を見ても寒川町、相模原市、そして、本年1月1日からは厚木市が自治法に基づく通年の会期制度をスタートさせました。

開成町議会でも、昨年１２月会議において新たに条例を制定し、本年４月より通年の議会制度に移行いたします。これにより、来年、平成２８年は、本日のような年頭に議会を開く必要がなく、条例上１月１日から１２月３１日まで、来年はうるう年ですので、３６６日間の会期となり、閉会中という期間もなくなります。今後、議会発展のため、一步一步改革を進めていく所存であります。皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、戦後７０年について考えてみます。戦後、日本が過ごした７０年という歳月は、明治維新から敗戦までの７７年に匹敵します。

昨今、国政では、集団的自衛権で解釈改憲をいたしました。国のシステムは、司法、立法、行政の三権分立であります。このシステムは権力の濫用を防止し、国民の政治的自由を保障するため、国家権力に三権に分け、それぞれ独立した機関に委ねるものです。解釈改憲は、立法、すなわち国会の権限を行政、すなわち内閣が犯しているのでは、と懸念を抱くところであります。

平和は一度手放すと、取り戻すことは大変になります。今年はしっかりと国政で三権分立を守り、さまざまな議論をしていただきたいと思いますと考えます。

次に阪神・淡路大震災から２０年についてお話をさせていただきます。

日本は地震の活動期に入っていると言われています。気候変動に伴う集中豪雨も増えています。その影響で水害、土砂災害の発生も増加しています。そのほかにも、火山噴火への備えも必要となってきます。大災害の教訓を風化させない誓いを新たに、常に有事を想定した防災行政に期待をいたすところであります。

経済面では、本年アベノミクスによるトリクルダウンがどこまで波及するか、大変期待をするところでありますが、多くの期待はできそうにありません。

昨年１２月８日に、トマ・ピケティの『２１世紀の資本』が日本語訳され、発売されました。大変大きな反響を呼んでいます。各地の図書館でこの本の貸出が長い順番待ちとなっているそうです。東京都文京区の図書館では、所蔵３冊に対し、予約が２００人以上、ほかにも１冊の所蔵に対して１００人以上待つ図書館が幾つもあるそうです。この本では、資本主義のもとでは、資産を持つ人がますます富み、持たない人との格差が広がり続ける。富も貧困も世襲されていくと分析しています。資本主義の疲労というべき現状と今後への警告と捉えています。

日本でも、高度成長期には、国民総中流意識と言われてきましたが、現在を見てみると、格差の時代となってきております。子どもを見ても、６人に１人が貧困層の子どもと言われ、大変危惧する現状に憂いを感じ得ません。

本年は統一地方選の年であります。開成町議会も改選となります。再選を目指して立候補を予定している方々をお願いをいたします。何のために立候補するのか、この意思をしっかり持った上で選挙に臨んでいただきたいと思います。議員になることが目的なのか。議員となることが目的なのか。この「に」と「と」なるでは、大きな違いがあります。この意味合いについては、おのおの思慮願いたいと思います。

最後になりますが、今年も一歩ずつ改革に向けて進んでまいります。よろしくお願いいたします。

あわせて町執行部並びに職員におかれましても、常々効率的な行財政運営を心がけていることに心より敬意を表するとともに、本年も町民の方々の幸せ度の向上に向けて邁進していただくことをお願い申し上げまして、議長の年頭の挨拶といたします。よろしくお願いいたします。

以上で諸般の報告を終了いたします。